


津島町岩松 伝統的建造物群保存地区 町並み見学案内

↑ 天が森

臨江寺 享保2年(1717)開山。小西家の支援で本堂を明治43年に改築。山門は昭和14年建設。


中道 川筋付替の後に芳原溝沿いにてきた裏通りです。溝の名残の石垣が各所に残ります。

大商人小西家
 貞享元年(1684)に宇和島城下の商人米屋惣兵衛が岩松で酒造業をはじめました。その後、製塩・製蠟・新田開発など家業を拡大し、藩の御用商人として藩政に貢献したため、名字帯刀を許されます。分家である東小西家共々岩松の発展を支えますが、物流ルートの変更や戦後の農地解放を受けて徐々に家業を縮小していくことになります。
 川沿いの離れや蔵は河川付替後に川港として栄えた岩松の一時代を偲ばせます。



岩松で見られる建物の年代と種類


土居ノ奥川沿いに農家住宅が、本通りを中心に町屋や長屋造の建物を見ることができます。また、戦後になると戸建の小規模住宅が各所に建てられます。大正時代以降に建てられた洋風の建築も見られます。

	江戸	明治	大正	昭和(戦前)	昭和(戦後)
農家住宅	…	○	○	○	
町屋	○	○	○		
長屋	…	○	○	○	○
小規模独立					○
洋風建築			○	○	○

土居ノ奥 岩松が町場として発展する以前の農村集落の雰囲気が残っています。

本通り 江戸時代から街道沿いに形成された町場で、伝統的建造物がよく残っています。

代官所跡 港町の谷筋にある高石垣は幕末の絵図には宇和島藩の代官所跡と記されています。宇和島藩領は10組に分けて管理されており、旧津島町域は津島組とされ、代官が置かれました。

戒神社 岩松地区の氏神である三島神社のお祭りの時に御旅所となります。元は下本町2丁目のセンバにありましたが、大正頃に川港が移動したことで現在地に移されました。


芳原溝 今の岩松橋あたりにあった池から、岩松の南の芳原村の水田へと水を送っていた石積み水路。大正時代に蓋をされて中道の一部になっています。

岩松川の河川付替 小西家が宇和島藩に新田開発と治水を目的に届出を行い、慶応2年に岩松川を現在の流れに付替えました。



津島町岩松付近之図 (慶応2年以前) 所蔵:(公財)宇和島伊達文化保存会

獅子文六と岩松 作家獅子文六は夫人の出身地である岩松に昭和20~22年に戦後疎開してきました。東小西家(現在の太畑旅館)に逗留しており、その経験を元に昭和23~24年小説「てんやわんや」を発表、翌25年には岩松でロケが行われた映画が封切られました。

※地区内の建物はほぼ個人のお宅です。町並み見学の際には通りからの眺めを楽しみください。



①川通りの町並み ②中道の町並み ③土居ノ奥の町並み ④本通りの町並み ⑤港町の町並み